



# スカウト 浄土

The Scout Jōdo

海外浄土宗スカウト特集

ブラジル編







# G.E. PIQUERI do NIPPAKUJI

## 日伯寺スカウト運動について

浄土宗南米開教総監

南米浄土宗別院日伯寺

佐々木 陽 明

〔I〕ボーイスカウト日伯寺ビ  
ケリー団の発足

(1) 育成会の創立

創立総会を一九七〇年二月三日、別院日伯寺で開催、名誉顧問長谷川よし子先生、団委員長佐々木陽明、団長富永悟、隊長に池口龍雲開教使が就任。

(2) 団の名称

サンパウロ一九〇隊、「ボーイスカウト日伯寺ビケリー団」と決定。

\*Grupo Escoleiro Piqueri do Nippakujii. Sao Paulo 190.

(グループ エスコテイロ ビケリー ド ニッパクジ)

(注) グルッポ(グループ)団。

エスコテイロ(ボーイスカウト)、ビケリー(日伯寺の在る区の名称)

(3) 発隊式(一九七〇年七月二十五日、日伯寺にて)

十一名のエスコテイロ、十一名のロビンニョ合計二十二名(内、非日系一名)が発隊式に隊員として参加。

〔II〕隊の活動要因と社会的背景

(1) 当時のブラジル日系社会と、スカウト運動への期待

日伯寺ビケリー団の結成された一九七〇年頃は、ブラジル国の経済は好況が続いて社会情勢も安定し、農、工、商業ともに発展し、奇跡の躍進と言われた時代であります。多くの日本人がブラジルに移住していた時代でもあります。

ブラジルの日本人社会の構成が農村型から都市型に変化していた時代であり、そこには都市に住む日系青少年の情操教育等が強く求められていた時代で、ボーイスカウト運動も、その一

つとして考えられ、日系のカラムル隊、コチア隊等は指導者を日本から呼び寄せ、「ボーイスカウト移民」と呼ばれ、熱心な指導の下、立派な隊活動を展開しておりました。

日伯寺ビケリー団の発足を応援し指導したサンパウロ連盟の役員は、日系人の子弟だけで隊を結成し、日本式に指導し、他の隊(ブラジル人)の手下になる様に頑張ってほしいと要望されました。

(2) 隊の活動要因

日伯寺ビケリー隊は少数の隊員であり、発隊の歴史が浅いにもかかわらず、一年後に行われた南米大会(ミニジャンポリ)にはサンパウロ代表(3団体)のうちの一つとして、に選抜される等、その活動が高く評価されました。その要因については次の事が考えられます。

a) 池口隊長の情熱と指導力。

b) 富永初代団長の熱心な活動。



1979年ロビンニョ入隊式

c) 長谷川よし子先生外有志のキャンプ用品等の支援協力。

d) 日伯寺学園日本語学校存在。

e) 別院日伯寺の応援、経済的な支援。

f) どの野原でもキャンプの出来る当時の治安の良さ。

〔III〕日伯寺ビケリー隊の活動と指導者達

(1) 南米大会(ミニジャンボリー)への参加と活躍

一九七一年七月、スカウト南米大会(ミニジャンボリー)が、サンパウロより一千五百キロ離れた、南リオグランデ州クルスアルタ市で行われました。ブラジルを中心に、パラグアイ、アルゼンチンの他、南米各国の代表四十隊(八百名位)が集まりました。日伯寺ビケリー隊はサンパウロの代表(3隊のうちの1隊として)に選ばれ参加しました。

唯一の佛教礼拝を行う団として(これは公式大会で初めての佛教礼拝)、又、隊員達のきびきびした団体行動が非常に高く評価されました。大会コミッションが十一種目の特別表彰を行っ

たうち、日伯寺ビケリー隊がそのうちの七種目の表彰を受け、最優秀隊として全ブラジルに報道され、サンパウロ連盟の面目をほどこすと共に、隊としての輝かしい一頁を飾り、隊員達に強い自信と誇りを持たせたのであります。

高その大会では日系の隊という事からか、事前に連盟より、日本の国旗と国歌、代表的な歌とおどりをする様に依頼され、日系とはいえブラジル人である隊員がブラジル国旗と日の丸を一緒に掲揚し、「君が代」と「荒城の月」と、何故か「炭坑節」のおどりの練習を一生懸命にしたものも、楽しい、懐かしい思い出であります。

(2) 継続されたスカウト運動と担当開教使(隊長)の交替

a) 南米浄土宗教団の教線拡張と、それに伴う担当開教使の交替、従って隊長がよく交替した。

b) スカウト隊の隊長は池口師

(一九七〇)の後に村上秀道(一九七三) 鹿森俊雄(一九七五)

松本信雄(一九七八)辻伯明(一九七九) 三輪了山(一九八〇)

(以上開教使)と続き、一九八三年にはローバーより指導者に育った中村慶久君、後藤昌史君が就任。

c) アケラ(デンマザー)として、小関貞子、野村テレーザ夏子、小関明美、森野よしえ、吉川めぐみ、荒木幸枝、佐々木美和、小野木淳子の各人が一貫してロビンニョ(カブスカウト)の指導に熱心に努力されました。

(3) 十周年記念誌の発行

一九八〇年三輪隊長の時、十周年記念式典が盛大に催され記念誌を発行する。その中に隊長をつとめた池口、三輪各師の言葉が記されているが、共通して

いる処は、指導者はポルトガル語の修得が絶対的に必要であると言っております。

〔IV〕スカウトの休団

(1) 隊員の増加

日伯寺ビケリー隊の活動によつて、日伯寺の近所、ビケリー区在住の非日系ブラジル人の入隊申込が増加しておりました。

(2) 指導者の対立と混乱

非日系ブラジル人父兄の中で、スカウト運動に対する無理解と、団運営に対する非協力的な人が多くなり、又、一方では逆に、スカウト運動に熱心なあまり隊指導に必要以上の関与をする隊になり、若き指導者との間で大きな混乱が起きてきました。

(3) 休団

一九八四年十二月、若き指導者達が大学を卒業し、社会人として遠方に就職した事や、部室に泥棒が入り、キャンプ用品や貴重な資料の一部が盗難にあった事、時、あたかも日伯寺研修センターの大事事が開始する場で、スカウト隊員の指導する場所が無いという理由で休団を決定したのであります。



マリノガ日伯寺開基法要キャンプ



# G. E. PLOUERI DO NIPPAPAKUJI

考えてみれば、発団の折にサンパウロ連盟役員よりアドバイスされた事が証明された結果になりました。

日本では考えられない事ですが、多民族社会の中でのスカウト運動をする場合、人種の違いを越えてという理想と、隊の指導という実際のギャップをどの様に乗り越えていくのか、という事が大きな課題として残りました。

(V) 日伯寺ビケリー団の再発足について

(1) 再発足の基本方針

一九九三年、浄土宗南米開教四十周年、日伯寺研修センター落成により、日伯寺ビケリー団の再発足に関する件が、開教使、教団理事会、日伯寺総代会等で検討され、基本方針を次の様に決めました。

a) ポーイスカウト運動を本来

の目的に添って行うと同時に、教団としては、青少年教化活動の重要な開教として取り進むこと。

b) 再発足の場合、継続することを第一と考え、その見通しの無い場合は、急いで再発足しない。

c) 隊員構成は基本的には日伯寺信徒の子弟とし、始めは少人数でしっかり指導した上で徐々に人数を増やす。

d) 指導者は必ず開教使の中より担当者を出し、併せて、元日

伯寺隊員の中より選んで構成する。

e) 指導に当たってはポルトガル語が中心となるので、言語に関する対策を真剣に考える。

f) 団の本部室は研修センター内に置くが、防犯上、専用のキャンプ訓練所を確保する。

g) スカウト運動の為の資金の確保。

以上が確認され、鹿森俊雄開教使を担当主任に決定。

(2) 準備開始と一時停滞

一九九四年九月、ポーイスカウトの指導が出来得る櫻井聡祐開教使着任により、愈々本格的な準備が開始されたが、次の理由で一時停滞した。

a) 隊長予定の櫻井開教使に関して

イ、宗教家ビザの取得が遅れ、観光で滞在しているので正式に活動が出来ない。

ロ、ポルトガル語を或る程度習得する必要がある。

ハ、キャンプ訓練等自動車での移動が多いので、ブラジルの運転に慣れる事が必要。

二、開教使任期が三年であり、そのあと再任務するかどうか。

b) 別院日伯寺に関して

別院駐在開教使の人員が不足しているため、スカウト指導に専念出来ない。

(VI) 再発足への実行

(1) 開教使団の充実

別院駐在開教使は佐々木総監、船場明忠、ペドロ(三世)、櫻井聡祐開教使。

一九九五年五月、山口雄二開教使着任。

一九九六年五月、佐々木良法、エドアルド開教使(二世)着任。

佐々木良法開教使は日

伯寺隊発足時にロビンニコ

(カブスカウト)に入隊し、

大学時代迄、ポーイ、シニ

ア、ローバで活動経験があり。



ロビンニコ入隊式

一九九六年七月、櫻井開教使の宗教家ビザが交付され、本人より教団に対し、開教使任期を延長して、スカウト活動を行いたいとの申し入れがあり、教団理事会は了承。

(2) 準備開始

a) 鹿森開教使発病の為、スカウト団発足の責任担当を、櫻井、佐々木良法、稲場、三開教使の合議で推進する事とし、日伯寺ビケリー隊O、Bの協力を得て、育生会の結成準備を行なう。

b) 隊員募集状況(一九九七年一月現在)

・ロビンニョ(六十一才)

定員十二名 入隊決定九名、

入隊希望五名

・エスコテイロ(十二、十五才)

定員十名 入隊決定四名、

入隊希望三名

・指導者・定員四名

入隊決定二名

c) 今後の予定(一九九七年)

イ、連盟への団結のための

説明会依頼と開催(二月中)

ロ、団委員会、育成会、父兄

会の結成

ハ、指導者の確保、養成(二月中)

ニ、訓練用キャンプ場の交渉

(二月中)

ホ、隊員募集、勧誘(継続中)

ヘ、隊活動開始(二月末)

ト、団登録、発団式(三月)

〔Ⅶ〕今後の課題と希望、夢

(1) 今後の課題

a) 指導陣の充実

b) 備品の購入

c) 専用キャンプ場の確保

d) 専用自動車の確保

(2) 希望と夢

浄土宗南米開教総監部としては、現在毎年こどもおてつき奉仕団(二月、二ヶ所)こども大会(八月)等を行っていますが、再発足するスカウト運動を今後の青少年教化の柱と考えております。

種々と苦しい事が多いと思いますが、開教使が一丸となって事に当たる覚悟をしています。そして隊としての実力を備え、指導者を育てて、近き将来、マリンガ日伯寺を主体にして、パナ州の日系として初めてのスカウト団を結成したいという希望を持って居ります。

尚、再発足する日伯寺隊を将来日本の浄土宗関係のスカウト隊にブラジルに来ていただき、スカウト運動による日伯国際交流を実現したいという大きな夢を持って居ります。

◎おわりに  
本年八月には浄土宗スカウト連合協議会の有志の皆様がご来伯下さると承っております。スカウト運動を通じて、南米開教区への「喝」と「激励」と受けとらせていただいております。一人でも多くの方々が御来伯下さり、開教の現情を御理解下さり、御指導下さる事を願い、心より歓迎申し上げます。

合掌

(一九九七年 二月十日)



ロビンニョキャンプにて



# ペンの全国リレー スカウトに聞かせる話

その6

## 「人に成る」とは

浄土宗スカウト連合協議会常任理事

牧 達 玄

三指

新年を迎え、ちようど昔でいう小正月（こしょうがつ）にあたる一月十五日。毎年、二十歳になり大人の仲間入りをする若者を祝う「成人式」が国、地方自治体、企業、などの主催により全国各地で執り行われます。浄土宗でも総本山・知恩院において毎年盛大に行われていることは、君達もよく知っているでしょう。（掲載の写真参照）

ただ、近頃は地方から都会に出て働いたり、学校に通う若者が多いため、場所によっては必ずしも十五日ではなく、若者の帰省が多い正月休み（中には夏の盆休みのところもあるというところですが）に行われるところもかなり増えているというところで、君達の回りではどうでしょうか。ところで、この「成人式」ですが、一般では「二十歳に成る

た御祝いの式」と理解されていますね。つまり、「成人」とは「二十歳に成る」という意味で、



知恩院の成人式

現在ほとんどの人が理解しているようです。ところが、この「成人」ということばは、もともとその意味は、文字通り「人に成る」ということを意味しているのです。

しかし、人間として生まれてきたのに、いまさら「人に成る」とは一体どのようなことなのでしょう。二十歳をもって「成人」というなら、今までのその人の二十年間は一体何だったのでしょうか。そして、「大人の仲間入りをする」とは本当はどんな意味なのでしょう。そのような考えが浮かぶということは、この「成人」＝「人に成る」ということばには、もっと深い意味があるということなのです。私は「成人（人に成る）」とは次のようなことではないかと理解しています。即ち、「真に人間らしい人として生まれ変わる」と、つまり「自分自身がどのように生きて行くのかという、自己の人生観を確立できるような人間に成ること」と。

確かに、年齢的なもの、経済的に自立すること、また、社会的地位を確立することなども、大人として認められる条件の一つではありますが、本当の意味での条件とは、やはり、「自分自身の立場や在り方、それに命というものを真に自覚すること」



その7

## 結成三十周年に

## スカウトと仏前結婚式

浄土宗スカウト連合協議会理事長

溪 逸 郎

地区キャンボリーの会場から元気の歌声が聞こえてきます。

「コーはんだコーはんださーたべようー」楽しいキャンプの食事です。なぜかという、側に立っているリーダーもスカウトたちも帽子をかぶったままで、掌を叩いたり、手に持ったお箸で食器を叩いたりして大声で歌っているのです。キャンプという野外の開放感はいとしても、やはり訓育の場であるスカウト活動の姿ではないのではないのでしょうか。日本のスカウトインダグの精神的な現状の一面を見る思いであります。

さて自慢めいたお話になりますが、お許しをいただいで書かせていただきますと、私の住職歴は四十年あまりであります。そしてその前半二十年ほどの間に、

二十数組の仏前結婚式をさせてもらったのであります。お檀家の青年たちの結婚式を仏前結婚式として本堂で行い、その誠師を勤めることができたのであります。そして、其の新郎の大半は元スカウトであったのです。

その頃は「ボーイスカウトに入団していたものは結婚式はお宮さんでなく本堂でする・・・」という事（傾向）になっていたのであります。

お葬式や年忌法要が中心になっていて現代の寺院活動の中で、人生のめでたいときにもお寺が其の舞台になっていくというものが、かつて若い住職であった私の大きな誇りであり、努力の成果でもありました。そしてそれは、お寺で行うスカウト活動の成果であったと言うこともでき

るのであります。

初めの食事風景に書きましたように、わが国のスカウトインダグは、信仰や精神的な分野が何時も手薄になっていくのでは無いでしょうか。そしてそういつた中における、我々宗教スカウトのあるべき姿、果たすべき役割は大変重要なものであると考えます。

結成三十周年の年を迎えて、私たちは一層その自覚を深め、更なる活動を誓いあい、浄土宗の信仰がスカウトの人生の中に、生きてゆく指針となり力となつてゆくことができるように努力したい事でありませう。



仏前結婚式風景



その8

## ボーイスカウト活動と宗教

浄土宗スカウト連合協議会常任理事

井原 善昭

近年、私達を取り巻く社会環境は随分と変化しました。次代を担う青少年を、心身ともにバランスのとれた人間として社会に送りだすことが、今ほど大切な時はないでしょう。

ボーイスカウト活動はイギリスのペーデン・パウエルによって始められました。ボーイスカウトの信条、基本精神の理念となっている「ちかい」の中に、「仏と同等に誠を尽くし、おきてを守ります」となっています。

そして、「信仰心の無いスカウティングは、ただの術使いにすぎない」とまでいいきっているのです。このように、スカウトは、総べて信仰を持つことを奨励されているということです。

スカウト活動の特色は「ちかい」や「おきて」を守ることを自分自身やスカウトの仲間にも

かうところに、大変大きな意義があります。ことばをかえれば、スカウトは「ちかい」をすることによって、はじめてスカウトという身分を獲得したことになるわけがあります。

スカウティングの根幹はペーデン・パウエルの心を心として学ぶことから出発している。そのペーデン・パウエルの心とは「宗教的信仰」を深めることでもあります。

宗教的信仰とは、思いやりの心を育てることでありましょう。思いやりとは、相手の立場に立って考え、相手の気持ちをくむ能力ですから、周囲にいる人々を暖かくつつみ込みます。思いやりのある人々で社会が構成されたら、どんなによい社会ができる事でしょうか。

また、「一日一善」というものは宗教的な基盤の上になつても

ので、実はお念仏の生活の中につながってまいります。

日本連盟初代総長・後藤新平先生は、「ひとのお世話をするように、ひとのお世話にならぬよう」と常に言っておられた言葉です。

長い人生において、少年期にスカウト活動を勉強しながら培われたこの「相手を思い合う」習慣は必ず生かされることになると思います。このことが、まさに合掌の心でありましょう。

「明るく」「正しく」「仲よく」という三つが、仏教の理想とする児童像です。

このように、スカウト運動というものは信仰、宗教心に立脚した青少年の健全育成の団体であります。

まもなく二十一世紀。全国の寺院に仏教スカウトの輪が広がってゆき、子供たちがスカウティングを学びつつ「ありがとう」「すみませんでした」という、言葉が心の底からいえる、世の中になることを、念じてやみません。

合掌



仏前で誓いの式

今、うちの団では……

## 各地のスカウトだより

### 「スカウト運動」

ガールスカウト

宮城県第十九団

平成八年度の入団式を迎えるに当り、名簿を見てつくづく思いました。時代の流れは早いもので、もう平成元年生れのスカウトが入団するようになりました。一段と新しい気持ちで進まなければならぬと思えました。団活動をして六月二十二日「ふれあいフェスティバル」が塩釜市内の緑地公園で塩釜・石巻・気仙沼の団の協力で、追跡ハイク・ゲーム・ソング・クラフトはマカロニを使って可愛いネームプレートをつくったり、梅雨時期でしたが、公園に遊びに来た家族を巻き込んで楽しい一日を過ごしました。八月にはキャンプ、九月十五日は仙台駅コンコースに於て「平和キャンペーン」を行いました。平和をいろ

くな角度から見つめ行動に移すという事でシニア・レンジャーの県支部の実行委員会が中心となり、平和に向けてピーアールをしました。十一月には老人ホーム「不老園」を訪れ、リハビリの時間に不自由な手足を動かしながらミニボーリングをしたり心暖まる交流をし再会を約束し帰りました。以上のように今年もスカウト達はさまざま活動をする事が出来ました。これも関係者皆様のご協力の賜と思えます。このような体験がスカウト達の社会生活に於て役立つ事を念じてやみません。

合掌

### 「大晦日のボーイ

#### スカウト」

ボーイスカウト

栃木県今市第四団

変なタイトルで申し訳ありま

せん。実は我が今市第四団は、いま全く活動していないのです。ところが、大晦日の晩だけは、十一時頃になると、スカウトOBたちが集って来ると、何かをやるのでしよう。大きな鍋に甘酒を入れて、バーナーであつためるのです。十一時半頃には、除夜の鐘を撞く人々が鐘楼堂の前に並びます。それぞれ鐘を撞くと、本堂の阿弥陀さまにお詣りして帰ります。スカウト達は「その一人一人に「おめでとうございませう」と云い乍らお茶わんの甘酒を接待するのです。あつたかい湯気と共に身体がすっかかりあたま、今年もどうぞよろしく」と云って去って行きます。

スカウトOBの中には、もう結婚している青年もおります。「子供ができたら又やろうよ」と約束しました。

### 団のモットー「和」

ボーイスカウト

東京連盟台東第四団

ボーイスカウト台東第四団は、

東京の下町台東区浅草上野をエリアにした地域団として楽しいプログラムを展開しています。台東区でも近年、少子化の現象が続き、スカウト人口にも影響があるのが悩みですが、わが団はピーパー隊、カブ隊への入隊希望も順調で活発なスカウティングへつなげることが可能です。地域団ではありませんが、情操教育として仏教行事をプログラムにとり入れていきます。花まつりや成道会では団全員が集まり、お釈迦様のお話を聞く団行事、また、集会の開式閉式では必ず合掌礼拝をして、感謝の心を育てるひと時を持ちます。

平成十一年には、発団五十周年をむかえる歴史の中で、スカウト経験豊かな指導者が、多勢育っていることも、団の魅力となっています。年に四〜五回は実施される団合同プログラムで、ローパースカウトからピーパースカウトまでの縦わりグループを大切に体験ができることも、団の活性化へつながることにもなるのでしよう。

団のモットーは「和」

指導者のコミュニケーションも  
なごやかで、スカウト教育に、  
よりよく反映され、二月の団行  
事「BP祭」では、男性指導者  
のスカウトソングのコーラスが  
花を添え、スカウトの希望、団  
の和をはぐくむように、暖かい  
ハーモニイが輪を広げていきま  
した。

## 二名が富士スカウトに

ボーイスカウト

木更津第二団

昨年は夏のキャンプ、お閻魔  
様緑日の奉仕等の活動を終え、  
秋には上総南総合同地区ラリー  
や養老溪谷のハイキング、おい  
も堀りなど楽しい活動や、厳肅  
な仏前でのちかいの式、暮れに  
は、耐寒キャンプ、又、恒例の  
お餅つき、歳末の街頭募金等一  
年の行事も終り、新年を迎えて  
元朝〇時、お寺の修正会にス  
カウト関係者も参加、五日は新  
年会のお茶会。スカウト達は本  
堂での礼拝の後、書院での一服  
のお茶を頂き、今年の活動が始  
まりました。三月にはスキー訓

練も実施され、これも楽しい活  
動の一つです。

今年には昇級、牛歩の如く歩み  
つづける当団のスカウト達、昨  
年は新しく二名が富士スカウト  
に進級して後輩の手下になるよ  
うにと張りきっています。それ  
につづくボーイ、カブ、ビーバー  
も明るく、正しく、仲よく活動  
を続けています。

但し隊員の数が減少している  
のが悩みです。

弥栄

## 冬の団活動

ガールスカウト

石川県第五団

北陸・金沢のガール・スカウ  
ト石川県第五団の冬の活動に  
は、雪遊びとスキーをとり入  
れています。Brは、如来寺より  
バスで三十分程の医王山少年  
自然の家に泊り、雪だるまを作  
ったり、スキーを体験したりし  
て、自然の美しさに感動し、厳  
しさを感じています。Jr・Sr・  
Rrは、バスで一時間半程の一里  
野スキー場で、五、六人ずつ  
のグループに分かれて、スキー

を楽しみます。ゴンドラに乗っ  
て、山頂から滑べるスカウトも  
多く、スキーは、スカウト達に  
人気のあるプログラムです。リ  
フトに乗ったことのないス  
カウトも、午前中基礎練習をす  
ると、午後にはリフトに乗るこ  
ともでき、スキーが大好きにな  
ります。

二月は足元が悪いため、三月  
に涅槃会をしています。リーグ  
一連がぜんざいを作り、スカウ  
トとお詣りの方々にふるまいま  
す。そして、如来寺本堂で、涅  
槃絵図のお話をおききしてから  
団子を拾います。健康で明るく  
感謝のできるスカウトに育って  
ほしいと願っています。

## 奥村謙一君「第六十 九回選抜高等学校野球 大会奉仕スカウト代表」 に選出される。

ボーイスカウト

大阪第七十一団

当団は昭和三十五年四月、現  
育成会長、大長寺住職西田亨心  
氏が中心となり、地域団として

発足したが、昭和五十五年より、  
宗教団として、浄土宗スカウト  
連合協議会に加入し、現在に至  
っています。

現在の団の構成は、団委員会  
九名、ビーバー隊には、大塚裕  
子隊長、筒井乃里子副長、スカ  
ウト七名が、楽しいプログラム  
を展開しています。カブ隊は、  
ベテランの伊藤茂隊長、石見治  
副長、スカウト十五名が団の中  
心的な役割を持って活動してい  
る。ボーイ隊は、長野睦生隊長、  
大西高朗副長、米田雅行副長補  
スカウト九名が楽しいボーイス  
カウトとしての運動を展開して  
いる。シニア隊は少数精鋭の  
スカウトが、個々の個性を發揮  
し活動している。この中には、  
昨年二人のスカウトが仏教章を  
授与されるまでに成長し、平  
成七年十八Wtには、二人のスカ  
ウトの派遣を見た。この様に、  
スカウトの活動も目に見えて活  
発になって来た事は嬉しいの一  
言につきると思います。

宗教活動としては、初詣には  
本山「知恩院」参拝入団、上進  
式には宗教儀式を取り入れてい



る。お彼岸の前には境内墓地の雑草の除去作業を行っている。

今年八月には、地区キャンポリーが、「福井県立奥越高原青少年自然の家」を中心に開催される事となり、各隊あげて参加すべく検討中であります。

浄土宗スカウト連合協議会に皆様方が多く加入されることを希望すると共に、会員各位の益々の御発展と御健康をお祈りします。

合掌

## 発団二十八年を迎えて

ボーイスカウト

大阪第一二四団

発団して二十八年目を迎えます。

大阪の南東地区に属し平野区の満願寺に本部を置きビーバーからベンチャーまで登録人数は六十名で活動しています。

大阪市内の一番南に位置し隣は八尾市、松原市に接した所です。

団の一番誇りに思う事はスカウトが全員元気な事です。又自慢出来るキャンプ場が奈良県の

桜井市にあります。テントサイ

トは六張、広場もあり人家から離れスカウト活動の中心、野外活動が自然の中で出来る事です。

一月の新年集会、二月のスキー、五月のスポーツ大会、八月の長期野舎営、十二月の餅つき晦日ソバ、除夜の鐘つきと団行事を行っています。

スカウトは毎年プログラムの中に緑の羽根募金、年末助け合募金、火の用心の夜廻り又老人ホームの大掃除等奉仕活動にも頑張っています。其の時其の機会にどんな事にも精一杯取り組み事を目的に活動を続けて行きたいと思えます。

## お陰様で

### 四十七周年を

### 迎えました

ボーイスカウト草津第一団

日本ボーイスカウト草津第一団は一九五〇年に(昭和二十五年六月)牧達雄住職(現知恩院執事長、草津第一団育成会長、滋賀連盟名誉会議議員)を中心に準備隊を発足させ、その年の十二

月二十五日にスカウト十四名を

もって結成して以来、多くの先輩諸兄の温かい御指導と御鞭撻を賜りまして、今年で四十七周年を迎えることの出来ましたこと御同慶の至りと深く感謝申し上げます。

上げる次第でございます。今では一〇〇名を超えるスカウトとリーダーがスカウティングに励み草津第一団の伝統を守って頑張っております。

草津第一団は四十七年の歴史がありますのでお陰様で指導者には困ることなく次から次へと優秀な指導者が育ってくれますので喜んでおります。そして、指導者全員が家旅の如く仲よく頑張っているのが我が団の自慢であると思っております。

また、「シニアの森」と命名したキャンプ場(約十hr)を団で持っております。団内の各隊が夫々有効に利用しております。これも我が団の自慢であります。

日常は西方寺(牧達雄住職)の境内地に設けられた「青少年活動ひろば」を活動の場として楽しいスカウティングに励んで

おります。

これからも一層の精進をして参りますので御協力と御指導の程宜しくお願い申し上げます。



ボーイスカウト草津第一団

## 香川からこんにちは

ガールスカウト

香川県第十二団

皆さん、こんにちは！私たちがガールスカウト香川県第十二団は、法然寺を拠点とし今年で五年目を迎えることとなりました。現在四十二名のスカウト達が活動に励んでおります。

集会のスタートは、釈迦堂（釈迦涅槃像安置）でのお勤めから始まります。その後は、それぞれ活動場所に分かれます。

ブラウニー達は、境内の生い茂る木々の自然の中で、学びながら楽しく活動しています。

毎月ある法要では、ジュニア以上のスカウト達が、訪れるお客様へお茶やうどんのお接待をするのが、活動の一つとなっています。

今では、お抹茶をたてる人、運ぶ人、器を洗う人と、スカウト各自が自主的に分担して積極的にやるようにもなりました。

また、特別養護老人ホーム竜雲虹苑での敬老会やクリスマス会などの恩恵では、スカウト自身が演出して、歌を歌ったりして、お年寄りの方々の交流を深めるよい機会となっています。

今後もスカウトとともに、歩んでまいりたいと思います。

## 発団五周年を

### 迎えました

ボーイスカウト八代五団

我がボーイスカウト八代五団は、一九九二年六月十三日発団、今年で五年目の若い新団であります。よろしく願いいたします。

現在団委員 四名

BVSR 三名 スカウト十三名

CSR 七名 " 二十一名

BSR 一名 " 十四名

SSR 一名 " 五名以上

発団より以来、先発団である水俣第一団西生院住職浜田義晴上人・副住職浜田智海上人のご指導ご教示を受けスカウト活動を展開いたしております。縁あって浄土宗スカウト連合協議会に入会させて頂き、第五回浄土宗スカウト海外派遣団へ四名のスカウトが参加、又、仏教章二名取得しております。今後共、諸先輩団のご指導を仰ぎ、仏教精神を体しスカウト活動に頑張りたいと思います。

合掌

## 自然の中で

### 頑張っています

ボーイスカウト島根連盟

石東地区大田第一団

大田第一団は島根県で最も古い団です。一時、数年間の休団時期がありました。もう五十年近い活動を続けています。このところ、島根県はスカウト人口が減り続け、特に当地区は過疎化の影響で活動している団は二団ほどになってしまいました。そんな中で当団は毎週日曜日の午後から、カブ・ボーイ・シニア達のスカウト集会を続けています。特に年間の行事として、夏の県外キャンプ・春の新人隊体験キャンプ・二、三年に一度ローパー達と海外へ行っています。奉仕活動も多く、ユニセフ募金は二十五年以上続けています。また、毎年秋に寺の敬老会の法要には、劇の出し物をしており、『桃太郎』や『西遊記』を上演しています。

島根は自然に恵まれた所なので、スカウトの野外活動には大変適しており、スカウト達も自

然の中で、元気一杯頑張っています。

## 「年の締めくくりの

### 行事の中で」

ボーイスカウト柳井第三団

毎年、年の締めくくりは、「歳末助け合い募金」と「餅つきとしめ縄づくり」「除夜の鐘つき」の三つの行事で終る。歳末助け合い募金の終わった後、よくスカウト達にこう話す。「君達は大きな声を出し、寒風の中を身体を動かして活動に参加している。これは大変意義のあることだよ。ただ単に小遣いから出したのは大きな違いだよ。これがボランティアの心なんだよ」と。

ボランティアの本質は、他の為にしてあげることではなく、自己の為に行うことである。スカウティングはここまで高める活動である。

スカウト達が年の締めくくりの行事として募金活動をし、餅つき、除夜の鐘をつく一連の行事の中で、他者と自己を見つめ、真の奉仕の心を身に付けて

欲しいと願っている。

## いきいきスカウト 96

ガールスカウト

山口県第二十三回

「届け私の声、平和のために」  
平和を願う風車を作って小さな風を起し、大きな風となり渦となつて、私達の願いが世界中に届く事を祈り乍ら、支部平和キャンペーンに参加しました。県下各地区から集合し、県教育会館で、外務省報道官の方のお話を聞き、午後は、自作の風車を両手に持って、消防音楽隊の先導で山口市中大行進、道行く人に風車を渡しました。

「自然の中で楽しいブラウニーの島めぐりをし、お友達を作ろう」を目的に、秋吉台少年自然の家で一泊二日のブラウニーキャンプに参加しました。障害をもったお友達や、バスの中でお友達になった人等と固くなつた開会式と、お別れが淋しくなつた閉会式、次年度の再会を約束し、さようならをしました。花まつりに入団したスカウト

も、夏から秋にかけては行事毎にたくましくなり、冬のスキー教室、三月の進級式では驚くようです。

発団三十年を迎え、共に歩んだスカウト達と思い出話を聞き合いました。社会の変化と共にスカウトのシステムも大きく変わりましたが、変わらないものは、自然です。朝小鳥の声で目をさまし、小川の水で顔を洗い、朝食準備の大変だったこと等、親子二代のスカウト活動を見守る私達リーダーは、いつも佛様の前でスカウトといっしょに両手を合わせています。



山口県秋吉台少年自然の家  
ブラウニーキャンプで元気のいい23回一回

## 県連創立四十周年

### 記念野営大会開催

ボーイスカウト水俣第一回

九十六年八月二日〜五日まで、約九百名の参加者を集め水俣で開かれました。四十周年の記念大会ということで鹿兒島、宮崎両県連からも百名の友情参加があり、記念大会にふさわしいものとなりました。会場は目の前が不知火海ということもあり、プログラムには、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、ペーロン等の海洋スポーツから、サイクリング、ベクトルボルトロケット、そば作り体験、紙スキ体験と盛りだくさんの内容で、特に今回はプロのバンドを呼んで海辺でのサマーサンセットコンサートを開き、スカウトたちも音楽に合わせて踊ったりと楽しい大会となりました。

ホスト団の水俣一回として一年前から団全員で準備を進めてきました。今回の大会は過去最高の参加者と、スカウトたちに大好評のプログラム内容で県連四十周年大会にふさわしいもの

となりましたし、これからのスカウティングのあり方について考えさせられるものでした。

## 編集室より

今年夏に予定している、海外派遣団募集はアメリカ、ブラジルとも定員になり事務局ではホッとしているところです。

スカウト浄土では、海外浄土宗スカウトを特集してきましたが次回も、夏の派遣団の交流の様子を取りあげる予定にしています。お楽しみにお待ちしております。

編集をしていきますと、原稿の集まり具合が一番苦労するところですが、今回は何んと集まりすぎて困って仕舞うことになりました。

スカウト浄土(第十七号)

発行/平成九年三月十五日

京都市東区林下町

浄土宗宗務庁社会局内

浄土宗スカウト連合協議会

編集者/東海林 良 雲

印刷/利商印刷